

磐城時報

編輯部 磐城 阿田弘成
印刷部 加納活版所
發行部 磐城時報社
一部金貳拾圓 一月金貳拾圓
廣告料 一行十二字 五字五錢
日刊(日曜祝祭日) 報日休刊

急激に増加した 躍進平町の人口

臨時町勢調査の 數字今日中に判明

市制施行に備える平町勢調査五十五戸、人口二萬七千は三十一日午前零時現在三百七十一名に對し、戸數の現勢で行はれたが、數日百五十戸、人口一十千名の増前より町内二十八區長及び加ふる躍進平町を如何に統計調査員總動員で調査して示してゐる。正確な數字は統計調査員總動員で調査して示してゐる。正確な數字は展から従業員が著しく増取纏めて町長に提出する管加し、昨年十月現在の戸數である。

重役改選に伴ひ 磐炭の陣容一新

先づ役員整理

去る廿四日東京本社に行はれて、第三、第四の出た磐城炭礦株式會社の臨時に全く出炭減を余儀され時株主總會に於て大株主の悲運に達着した、會つてして専務取締役の責任に在は第二磐城(長倉坑)の開鑿つた渡邊六藏、取締役石井に莫大な企業費を投じ第一駒次郎、監査役内山吉五郎、磐城炭礦區からの増出炭は三氏は辭任し、倉田龜之助を挽回に焦り無軌道的な金山香次兩氏が新たに取締進出振りを發揮して遂に資役に、監査役には近來の盤金難に陥つたが、第一銀行城炭礦株買占めに狂奔した系の後を追つた安田信託にこの風説を生み同社長淺野依つて三百萬圓の金融は全同族會社は姉妹關係にある同社の悲況に活氣を注入さへ言はれて居るカキガして更生階梯に辿りつ、あラ町の大物山山株式店主選つたと見られて居たが出水山元一氏が就任するに至り、災害に直面した同社は再同社も住吉坑の出水に相次度の痛棒に全く業績の前途

總選舉執行で 氣遣はる、花見

藝妓屋、料理屋 極度に惰氣返る

寢耳に水の議會解散で地方民は極度に狼狽してゐるが特に平町では名所松ヶ岡公園の櫻の準備萬端を整え觀客を待つてゐた折、その惰氣方も寧ろ氣の毒である平藝妓屋組合幹部は「非道い事になりましてこれ商賣は減茶苦茶で、私どもの書入れは第一番に正月、第二番に四月となつてゐますが、それが選舉最中から來ては、どうにもなりません、昔のやうに選舉が景氣よくやれるならこの四月の選舉大歓迎です。然し今や船正選舉で些細の事まで問題にされるのだから安心して花も見てゐられなさいです。あれが怪しい、なんて目をつけられ、やうでは誰が花見に行

長谷川幾之進、村議選候補普及を計る目的で来る十一長渡慶三郎、村議選候補三日から三十日まで二十日間澤義則、村議選候補主任佐平町白銀町元平劇場跡に警々木大、醫師大瀧正晴の警察會が開かれる事になつたが、何れも永年在職者の催しには特に前警視總で課長級であり時節柄同氏監で日本消防協會長であるの退社は全く注視されて居る丸山鶴吉氏が應援してゐるが、同時に下級職員の出品の重なるものは左の如く、自殺者の頭蓋骨(寶物) 刀、切斷された生首と兇器、切り取られた男子の、徳川時代の刑罰種々種、男女局部(梅毒のいろ)、石川五右衛門の大釜、其他消防防犯、刑罰、風俗、衛生、教育の資料、珍品數千點、小塚原刑場(獄門、斬首) 日本橋晒場(鏡挽き) 化物屋敷

常磐の松 宮家に献上

平町白銀町石島一徳齋翁は 惟神道に携はる事六十余年 今年米壽を迎へ翁の門下生 發起の下に全國名門知名の 士から二千余の歌を求め常 磐の松の一冊を編纂したが 今同嗣子大教正石島徳長氏 は松平宮相を通じ秩父宮家 外十六宮家に一部宛を献上 した處三十一日採納された 旨通知に接した。

大久村長 一辭表撤回

双葉郡大久村々々長柳内義一氏は三月三十一日を以て滿期となるので二十八日村長辭表を飯野助役宛に提出し去る二十九日午後一時より村會を招集して協議會を行なつた結果來る六月一日迄留任を乞ふ事となつたのて柳内村長も辭表を撤回六月一日迄留任を乞ふ事となつたのて柳内村長も辭表を撤回六月一日迄留任を乞ふ事となつたの

石城駒躍況

石城郡下春駒躍賣のトツを切つて開かれた澤渡村中寺は三十日から五日間に亘つて行つてゐる。第一日の成績は平均七十一圓七十四錢で前年の五十八圓十錢に比し約二割高、出頭六十五、躍賣總額四千六百六十三圓であつた。

大國魂社例祭

四月七日に變更夏井村菅波鎮座の縣社大國魂社例祭は從來五月十四日であつたが、今年から例祭を四月七日に變更、八日部會を開き例祭に關する協神與渡御がある。

菊地校長異動

本縣教育會の異動に依りて四倉小學校長より湯本校長に榮登した菊地正一氏は在任三月十日行なつた結果左の諸氏に決定した。

大野の山火事

大野村大字柳生木田鐵江氏所有の山林同字花之木地内松林山林より昨三十一日午後二時半頃出火し同三時半頃鎮火したが原因は同山林の身として取調の結果長太郎は附近での出齒長とまで續

永戸村議選舉

永戸村の村會議員選舉は六月六日の處選舉期に關係して來月六日に繰上げて行ふ事になつた。

内郷就學兒童

内郷村各校への本年度入學の通知を發したるものは一千二百二十三名で内不明のたが就學通知が學務係の手許で迷つて居るもの百五十六名で、九百六十七名が入學する筈であるが、各校の就學兒童數は高坂校が最高位を占め、就學不明者は宮第三校分の五十八名が最高を示して居る。

四倉校遠足

高坂校	三八七	不明
第一校	七五	一一
第二校	二六五	二四
分教場	一〇二	一一
第三校	二九四	五八

因みに就學兒童の著るしい激増は高坂校、川平分教場である。

出齒長捕はる

草野村大字泉崎農務長太郎(四五)は去る二十六日午後九時半頃同村大字泉崎丹野カメ宅に忍び入りカメを自由にせんとしたが逃げられ、救ひを求めると長太郎は戶外に飛び出したが、折柄巡邏中の四倉署員に舉動不審として取調の結果長太郎は附近での出齒長とまで續

大浦村會

大浦村の本縣教育會の異動に依りて四倉小學校長より湯本校長に榮登した菊地正一氏は在任三月十日行なつた結果左の諸氏に決定した。

鷄鳴會幹部會

鷄鳴會には一日午後七時より同町役場に於て幹部會を開き例祭に關する協神與渡御がある。

三阪村會

三阪、澤渡組合村會は去る二十九日開き十二年度追加豫算を可決、中寺區長大竹米造氏に決定した。

警察博の 出品内容

警察方面の智識向上とその

御知らせします
 ◎御料理 旅館 御下宿等營業向の借家があります。
 ◎場所は四倉新町(夫坂元山ノ湯跡)
 ◎建物は二階と平家の二棟一軒
 ◎御座敷は六疊敷九ヶ所 四疊半敷三ヶ所 八疊敷一ヶ所及大廣間臺所付
 位地は平地より五間程高く後山、前は大洋に面し鹽谷崎の燈臺、新舞子等を目下に見風し青海原には真帆片帆の行きかう様子の如くである。
 御希望ノ御方へ電話四倉百拾番
豊田宛ニ申込下サイ

電話開通披露
 此程電話を開設致しました
電話四倉十六番
 四倉町字志津
 竹松 新妻春治

耳鼻咽喉科専門
鈴木醫院
 醫學士 鈴木正 男
 (入院のお需に應ず) 平町田町藤田女學校前
 (自炊の便あり) (電話五八番)

内臓外科
エツキス光線
産婦人科
 醫學士 黒澤廣
 平町田町
安齋醫院
 入院隨意 電話四七五

磐城名物 糯米製
北海屋のもちり飯
 進物用各種
 本品ハ消化吸収順ルヨク病人、産婦、老人、幼児ニ好適ナル食物タルハ勿論ビクニツグ、運動、旅行等ニテ疲勞ノ際之ヲ食スレバ勿チニ元氣回復スル事妙ナリ。
 平町二丁目
北海屋製菓部
 電話三八八

モーター 九ミリ半が 参拾九圓で 買へる
 電話下されば機械持参 店員が説明申上ります。
 平町二丁目
西村屋藥局
 カメラ部
 (電話三番)

開業廣告
齒科一般
 平町田町(安齋醫院向)
齋藤醫院
 東京齒科 醫學士 齋藤賢三

吸入用酸素純度99%
 モノサシ ハカリ マス
 体温器 寒暖計
 ●秤ノ取締・鍍糸・修覆致シマス
 ●寫眞機 關内藥局
 材料一式 電話四〇番

油と味噌
合鹽屋
 福島縣平町
 電話(營業部専用)一〇番
 (一般用)二七番
 振替東京一九七五五番
 明治生命 磐城代理店 山崎與三郎

腸胃科
松村
 胃腸病科 性胃病
 花柳病科 泌尿器病科 皮膚病科 肛門病科
門專
院醫科
 (番七〇一電) 町南町平

靈觀院葬送の際は御多用中にも不
 拘遠路の處御會葬被下且つ御鄭重
 なる御香奠を賜はり御厚志の段難
 有奉深謝候一々拜趨御禮可申上の
 處乍略儀以紙上御禮申述度如斯御
 座候
 昭和十二年四月一日
 坂本泰藏
 坂本昌藏
 親成 鈴木新右衛門
 總代 諸橋久太郎
 友人總代 青沼鋒太郎

開院廣告
平病院
 (平町警察署側(電六四一番))
 院長 醫學博士 鈴木定藏
 內科 院長 醫學博士 鈴木定藏
 小兒科 部長 醫學士 木下基一
 內藏外科 副院長 醫學士 横山喜俊
 一般外科 部長 醫學士 池谷宗三郎
 產婦人科 部長 醫學士 池谷宗三郎
 皮膚泌尿器科 院長 醫學博士 鈴木定藏
 レントゲン科 技師 岡田重德
 物理的療法科 技師 岡田重德
 藥劑科 部長 藥劑師 吉本孝平
 ◎診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄
 夜間診療ニ從事ス
 往診隨時 (急患ハ此ノ限リニアラズ入)
 病室完備 入院隨時(自炊ノ便アリ)

大型貸切の御相談は
尼子タクシー
 電話六四〇番